

令和8年度

新野東小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、児童が自ら考え、判断し、表現することができる授業の実践
- 学校及び家庭での学習習慣を身に付け、粘り強く課題に取り組む児童を育成するための指導方法の工夫

校長

北垣 真由美

学力向上推進員

委員	校長	北垣 真由美
	教頭	月岡 浩司
	教務主任	中尾 咲乃
	研修主任	山中 史江
	学力向上	江川 裕子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
<p>○個人差はあるものの、言語の基礎的な知識や計算などの技能が身につけている児童が多い。</p> <p>●初見の長文を読む経験が少なく、内容を読解することが難しい。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。</p> <p>・文章全体を読んで要旨を捉えたり、内容を正しく理解したりすることができる。</p>	<p>・知識・技能の習得状況を把握し、定着が不十分な分野の原因分析等を通して、授業改善を行う。</p> <p>・読書の時間に新聞を読む時間を確保する等して、色々なことに興味を広げ、読解力を向上させる。</p>			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
<p>○全校的な活動の場で、自ら発言できる児童が増えてきた。</p> <p>●習得した知識・技能を活用し、感想や要約などを文章で表現することには、苦手意識がある。</p>	<p>・目的に応じて、根拠や理由を挙げながら、自分の考えや意見を積極的に発表することができる。</p> <p>・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、感想や要約などの文章表現に生かすことができる。</p>	<p>・ペアやグループなどの学習形態を工夫し、考えを述べたり話し合ったりする場を意図的に設定する。</p> <p>・活動後に感想を書いたり発表したりする場を設け、根拠を明確にして考えをまとめることができるようにする。</p>			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
<p>○宿題などの与えられた課題に対して、真面目に取り組む。</p> <p>○日頃から家庭学習に並行読書を取り入れたことで、平日の読書時間が増えた。</p> <p>●自分に必要な内容を選んだり方法を工夫したりして、主体的に自主学習に取り組むことができる児童は少ない。</p>	<p>・自分の学習状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、学習に取り組むことができる。</p> <p>・与えられた課題だけでなく、自分で課題を見つけて取り組むことができる。</p> <p>・教科の学習に関する本を読み、学習を深めることができる。</p>	<p>・自ら課題を見つけて家庭学習や自主学習に取り組めるように、やり方や支援方法を工夫し、教職員間で情報交換しながら更なる改善を図る。</p> <p>・読書の幅を広げられるように工夫しながら、読書活動の推進を継続する。</p>			